

現代中国における祖先祭祀

—江西省の事例を中心に—

YUAN Liangyu

中国においては、葬儀や埋葬の方法、祭祀について、政府主導の葬儀改革——「殯葬改革」(以下「葬儀改革」)が行われている。その改革の主要な変革は、土葬から火葬への変更、管理された公共墓地の設置、従来の葬儀から追悼会への変更である。こうした政策は、中国古代の「入土為安」(「死んで土にもどれば、心は安らぐ」という考え方)、「孝」観念等という考え方とは大きく異なるものだが、経済発展と高齢化の進展につれて、必要に迫られて行われたものである。

本論文は、葬儀改革が特に強引に行われている江西省において、江西省政府が 2018 年に実施した葬儀改革の中で起こった事件を事例として、政府による社会・文化統合政策と、それに対する一般民衆の考え方を探り、現代中国における政府と民衆との意識のズレを明らかにしようとするものである。

第1章では、研究背景、先行研究、研究意義と方法について述べたうえで、江西省における葬儀改革の概要について紹介した。

第2章では、江西省における葬儀改革が行われる中で起きた事件をまとめ、分析した。新聞などの報道記事を収集して、「棺桶回収事件(事件1)」と「遺体掘り出し事件(事件2)」の経過を整理した。

事件1は、土葬を禁止するために、棺桶を強制的に徴収した事件である。伝統的な埋葬方法である土葬をするためには、棺桶が必要となる。さらに、農村地域では、長寿を願う人が 4、50 歳の頃から自分の棺桶を準備する傾向がある。この事件は一般民衆の間に大きな騒ぎを起こした。

事件2は、火葬を強制し、実施割合を高めるために、すでに埋葬された遺体を土から掘り出し、火葬した事件であり、これも一般民衆の強い反感を呼び起こした。中国、特に漢民族の間では、埋葬された遺体を土から掘り出すことは、死者に対してきわめて不敬なことだと思われる。このことを無視して強引なやり方をした政府側に対する不満は、ネット上の新聞記事にコメントとして数多く書き込まれていた。この事件に対しては、一般民衆の書き込みや新聞記者の意見記事

のほかに、学者らによるシンポジウムも開かれた。そうした意見からも、例え改革を進める中でも、政府による政策の執行が民衆の考え方と意見を無視すべきではないことは明らかである。

次に、第3章では、中央政府と地方政府による葬儀改革の政策を紹介した。葬儀改革のこれまでの流れと、中央政府と地方政府が公布した条例についてまとめた。政府は環境保護、経済発展、観光地の開発のために、葬儀改革を行なっている。さらに、政府は土地を占有しない火葬と自然葬などの埋葬方法をすすめていて、葬儀の簡略化も求めている。中央政府と地方政府の間には、業績考課制度が存在し、中央政府はそれに基づいて地方政府の管理を行っており、地方政府はそれを意識して政策を実施している。

事件と政策に続いて、第4章では、伝統的な葬儀のあり方とそれが持つ機能を紹介した。中国の伝統的な葬儀は、定められた手順で正しく実施することによって、祖先に対する尊敬である「孝」を表現するものである。しかし、政府が主張している簡略化された葬儀は伝統的な葬儀とは大きく異なるものである。なお、現在の江西省における実際の葬儀のあり方についても、2019年8月に友人の家の葬儀を手伝った人へのインタビューをもとにまとめた。江西省では、今でも可能な範囲で伝統的な葬儀の形に沿った葬儀が行われようとしており、政府が葬儀の簡略化をすすめていても、伝統的な葬儀は重要であると思われていた。こうした伝統的な葬儀の正しい実施は、中国人としてのアイデンティティを確かめることにもつながるものである。伝統的な葬儀の実施により、地縁・血縁集団の人々間の統合が実現できるのであり、葬儀は彼らの互助の場として機能している。さらに、伝統的な葬儀は親族・友人を集めて、長い時間をかけて実施されるため、遺族が悲しみの時間をうまく過ごすことにも役立っている。

第5章では、まとめとして、葬儀改革を進めるためには、一般民衆の考え方を意識しながら、一般民衆がより受け入れやすい方法を取らなければならないことを指摘した。葬儀改革を支持する人々であっても、実施の方法と手段は一般民衆の考え方を意識しないといけないと考えていることが、インタビューの結果から明らかになった。そのためのヒントとなる事例として、葬儀と埋葬に重要な役割を果たしている風水師を活用している事例を紹介した。この事例からも、葬儀改革を行うには、一般民衆の考え方を重視すれば、人々の合意を得やすく、目的を達成しやすいことが示された。